

## だれよりも大事な人

私には私よりずっと年上の兄が一人います。私が生まれた時、兄はもう中学生だったから、今まで一度もけんかした事はありません。けんかはおろか、兄はいつも私を見守ってくれる父親みたいな人でした。私と兄は本当に仲がよくて、私はどんなに激しく泣いていても、兄を見るだけで泣き止み、幸せそうに笑う赤ちゃんでした。でも、兄が大学に行ってしまった後、私が兄と過ごせる時間はほとんどなくなりました。大学の休みに帰って来る時はありましたが、数日間だけでした。幼稚園の時から全然会えなくなった兄だから、一緒に過ごした記憶もあまりありませんですが、兄はいつも私にとって世界で一番好きな人でした。アメリカに来てからは特にあう機会が無くなり、泣いたり毎日電話したりしました。

今年の夏休みにはその兄と十日間も一緒にいられました。その十日間は友達にも、先生たちにも会わず、完璧に家族だけで時間を過ごしました。一番最初にしたのは「海への家族旅行」でした。せっかくの機会だったので、一番きれいで良いペンションを予約して三日間ゆっくり休みました。父は色々見る旅行が好きな人で、これも見に行きたい、あれも見に行かなきゃと言い出しましたが、私も母もゆっくり休める旅行が良かったので、かわいそうな兄だけが父と一緒にあちこち行きました。おかげで私と母はゆっくりと休めました。天国みたいだった三日間の後は、「兄とのデートの日々」でした。毎日、ピアノ弾いてもらったり、一緒に散歩に行ったり、兄から全然離れなかったです。市内にいくと、一緒に素敵なレストランに行ってお飯食べてゆっくり話したり、プリクラ撮ったり、きれいなカフェに行ったり、ショッピングしたりしました。それから九月二十三日の両親の結婚記念日のため、カラオケで父と母が好きな歌を歌ったCDも作りました。最後に家族写真を撮りました。それは父が母に結婚記念日のプレゼントで計画した事で、普通の服を着て撮る普通の家族写真はもちろん、私と母はウェディングドレス、兄と父はタキシードを着て、結婚写真みたいな特別な写真も撮りました。その二枚を撮った後、あまりにも仲がよすぎた両親に感動したカメラマンが、カップルショットをもう一枚とってくれて、いっそう楽しくて嬉しくなりました。写真を撮り終わった後は、近くの観光都市の一番良いホテルに行って、ぜいたくな時間を楽しみました。

その次の日、兄は中国に戻りました。こんなに兄と一緒にいられた機会がなかっただけに、本当に一瞬一瞬が幸せでした。でも、幸せただだけに別れがつかないです。もう車の中でも兄にもたれて寝られないし、寒い時に気を使ってくれる人がいないと思うと、さびしくなるのが当たり前でしょう。こんなに優しい兄に一年に一度しか会えないのは本当にひどくて悲しい現実です。来年は私が中国に行くつもりです。私にとってだれよりも大切な兄に会うのを想像するだけでも幸せです。

## 私の夏休み(revised)

### キャロルワオン

学校が終わったすぐ後、私は日本への旅に出ました。要らないものを貯蔵して残った荷物でどうにかロサンゼルス空港へ辿り着きました。次の日は成田エクスプレスで成田空港から東京へ向かった。東京駅から東海道線の電車で藤沢駅まで乗りました。

それから私は二月三菱電機でインターンとして働きました。私のアパートは藤沢駅の近くにありましたからとても便利でした。それに、すぐ近くに中古の本とCDの店がいっぱいありました。駅の向こう側にもアニメイトというアニメのグッズの店がラーメン屋の隣にありました。アパートに住みましたから会社からご飯をもらわなかったけどその代わりに食べ物を買うためのお金をもらいました。だから毎日となりのダイエーというスーパーに行って自分の料理の材料を買いました。

私は三菱の情報システム構築技術部（Iシ部）の情報システム開発プロセス技術チーム（Iプロチーム）のメンバーとしてソフトウェアのモデル化の研究をしました。私のIプロチームには八人ぐらいいました。それに、Iシ部は六チームぐらいでした。日本の会社はアメリカの会社よりずっと厳しいと思います。みんなは同じ時間に同じ食べ物を食べました、そして毎日自分の机の周りの掃除をしました。

Iシ部のみんなはとても優しかった。「新しいインターンはアニメが大好きです」って聞いたら、アニメの音楽と東京のアニメの店の地図を私にくれました。私のチームの人も私にテニミュ（ミュージカルテニスの王子様）の切符を買ってくれました。「テニミュこそ日本の文化というものでしょう」と思って行きました。そこには女性がたくさんいましたからちょっと驚きましたけど、とても面白かった。

普通の週末は別に予定がないから他のインターンのトムと一緒に山の手線のどこかに行きました。私は池袋が好きでした。そこには乙女ロードというアニメ店の道があります。秋葉原にもそういう店がいっぱいありました。私の給料はほとんどそんな店（とくにあるk-booksという中古アニメグッズの店）とガチャボンで消えちゃいました。

会社では一週間の盆休みがありました。その間に中国の親戚に会いに行きました。それは短い時間でしたが楽しかった。春休みから会わなかった私の両親と妹も中国にいました。休みが終わった後、私は先に日本に戻りました。二週間後にアメリカ行の飛行機に乗りました。

家に帰った私は毎日寝たり食べたりして学校が始まるのを待っていました。そうやって一ヶ月を過ごしました。今すごく忙しくなったからそれはただ懐かしい思い出になりましたけどね。

ハキムアティヤ

L108a

作文二、十一月十一日

### カイウラニ姫、ハワイの最後の皇太子妃

ハワイの皇太子妃として育ったのヴィクトリア・カイウラニ・クレグホーン姫は素晴らしくて若い女性だけど、結果的に国と王位をなくし、それから敢え無く死にました。ハワイの王国は1775年に戦争でカメハメハ王が作りました。当時はヨーロッパの列強は主権国家を認めました。

砂糖作りが大事になればなるほど、外国の実業家はハワイに行き、外国の農園主はお金持ちになりました。ハワイの民族が病気で死んだから、農園主は多くのポルトガル人や中国人や日本人を連れ来ました。自分の国でハワイの民族は少数民族になりました。

1874年にカラカウアはハワイの王になりました。ハワイの文化を復活しました。子供がいないから、妹のリリオクラニを後継者として呼びました。リリオクラニも子供がいない。それで、カラカウアの姪カイウラニはリリオクラニの後の後継者を指定しました。

カイウラニはリケリケ姫とスコットランド人のアーチボルド・クレグホーンの娘です。わずか十一歳の時にお母さんは死に、宮廷で育ちました。そこにハワイの文化もヨーロッパの文化も体験しました。有名なスコットランド人の「宝島」の著者ロバート・ルイス・ステューブソンは友達です。カイウラニは非常に美しいだから「島のバラ」と呼ばれました。ハワイ語が堪能で、絵を書くのや音楽を作るのが上手です。孔雀が好きなので、ワイキキの地所に多く飼いました。

女王になるから、十三の歳時は家族はイギリスの学校に送られました。当時は王者はこの教育を受けなければなりません。でしたその学校でラテン語や数学や文学や歴史を勉強したり、フランス語とドイツ語を話したり、テニスクリケットをしたいと思います。暖かいハワイから寒いイギリスへ行ったのは大変だったと思います。

イギリスでカイウラニ姫はハワイの王国の転覆を聞きました。カイウラニの伯母さんリリオクラニ女王は新しい憲法を作ったのをきっかけに外国の実業家とアメリカの大臣とアメリカの軍艦の人は女王を廃しました。その憲法は外国人に不利でした。更に、実業家はアメリカがハワイを併合すれば、アメリカに砂糖を関税なしで売れます。

ニュースを聞いて、カイウラニは抗議するためにアメリカに行きました。誰もハワイの王女は野蛮人だと思っていました。でも、カイウラニは美しいし、今めかしい服を着ているし、色々の言語を話せました。皆は魅了されました。恥ずかしがり屋の十七歳の女の子にもかかわらずアメリカ大統領グローバ・クリーブランドと会いました。クリーブランドさんは助けたがっていましたが、なお米連邦議会は王国に引き戻しませんでした。元にもどすのは違法だから、すぐにアメリカと併合しませんでした。しかし、五年後にしました。

カイウラニはハワイに帰って、ハワイの民族の議決権のために働いていました。しかし、健康が悪く、二十三歳は発熱の後で死にました。今日はカイウラニ姫はまだ知られています。肖像がと名前はホノルルに至る所にあります。彼女は人々にさまざまな理由で重要です。ハワイの民族の闘争の象徴なのです。ハワイの多くの人のように、混血でした。若くして死んだり、結婚することがなかったのは悲劇的です。でも、カイウラニの自分自身のため覚えるは良いと思います。本当にすばらしい人でした。